

17.かれらは、自分がイスラームに帰依して、あなたに対する恩を施したように思っている。言
ってやるがいい。「あなたがたの帰依は、わたしへの恵・とはならない。もしあなたがたが真実
(帰依した)なら、アッラーは、あなたがたを信仰に導くことを、あなたがたへの恵・となされ
るのである。」

18.本当にアッラーは、天と地の奥義を知っておられる。アッラーは、あなたがたの所行をよく
洞察なされる方である。

SURA 50.カーフ章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.カーフ。栄光に満ちたクルアーンによって誓う。
- 2.いや、かれらは自分たちの間から一人の警告者が現われたことに驚き、そこで不信心な者たち
は言う。「これは全く不思議なことである。」
- 3.わたしたちが死んで塵になって(また甦るの)か。それは(理解出来ない)とんでもない甦り
である。」
- 4.われは大地が、かれらを如何に蝕・去るかを知っている。またわが手許には、(凡ゆる始終の
)記録の帳簿がある。
- 5.真理が訪れた時、それを虚偽としたので、かれらは混乱状態に陥った。
- 6.かれらは頭上の天を見ないのか。われが如何にそれを創造し、如何にそれを飾ったか。そして
それには、少しの傷もないと言うのに。
- 7.また、われは大地をうち広げ、その上に山々を据え、様々の種類の美しい(草木)を、生い茂
らせる。
- 8.(それらは)悔悟して(主の御許に)返る凡てのしもべが、よく観察すべきことであり、教訓
である。
- 9.われはまた、祝福する雨を天から降らせて、果樹園や収穫の穀物を豊かに生長させる。
- 10.びっしりと実を付けた丈の高いナツメヤシの木は、
- 11.(アッラーの)しもべたちの食料。またそれ(雨)でわれは死んだ大地を甦らせる。呼出し
(復活)にしても同じようなこと。
- 12.かれら以前も、(使徒を)嘘付き呼ばわりした者があった。ヌーフの民も、ラッスの仲間も
サムードも、
- 13.またアードの民も、フィルアウンも、ルートの同胞も、
- 14.また森の仲間またトッバウの民も皆使徒を嘘付き呼ばわりした。だから(われの)警告は確
実に実現されてしまった。

- 15.最初の創造のために、われが疲れたというのか。いや、かれらは新しい創造に就いて疑いを抱いている。
- 16.本当にわれは人間を創った。そしてその魂が囁くことも知っている。われは（人間の）脛動脈よりも人間に近いのである。
- 17.見よ、右側にまた左側に坐って、2人の（守護の天使の）監視者が監視する。
- 18.かれがまだ一言も言わないのに、かれの傍の看守は（記録の）準備を整えている。
- 19.そして実際に死の昏睡が訪れる。これはあなたが避けてきたもの。
- 20.そしてラッパが吹かれる。これはあの約束された日である。
- 21.そして各々の魂は、追手と証言者に伴われて来る。そして各々の魂は、（羊の群を追い立てるように）追手（の天使）一人と（現世の諸行を証言するための）証言（の天使）一人に伴われてやって来る。
- 22.（その時、言われよう。）「あなたは、この（審判の日）に就いて実際注意しなかった。われは今、あなたから覆を取り除く。今日は、あなたの視覚は鋭敏である。」
- 23.かれの同伴の仲間は言う。「これが、わたしの準備したものです。」
- 24.（その時主は仰せられよう。）「あなたがた兩名、反逆した頑迷な者を凡て、地獄に投げ込め。」
- 25.正しい道を妨げた者、掟を破つ者、（真理に）疑いを抱いた者、
- 26.アッラーと同位に外の神を立てた者、あなたがた兩名は、これらを厳しい懲罰の中に投げ込め。」
- 27.かれの仲間は言う。「主よ、わたしがかれを背かせたものではありません。かれが（自ら）遠く迷い込んでしまったのです。」
- 28.かれは仰せられよう。「われの前で議論してはならない。われは即にあなたがたに警告したのである。」
- 29.われは言ったことを変えることはない。またわれのしもべたちに対し、決して不正ではないのである。」
- 30.その日われが地獄に、「満員になったか。」と問うと、「なお多くの（入る）者がおりますか。」と答える。
- 31.主を畏れる者には、樂園が近づいてくる。直ぐ近くに。
- 32.これは悔悟して常に（アッラーに）帰り（主の掟を）守る凡ての者のために約束されていたものであり、

- 33.目に見えない慈悲深き御方を畏れ、心の底から悔悟して（主に）帰った者たちのため（のものである）。
- 34.「安んじてそれに入れ。これは永遠の日である。」
- 35.かれらのためにはそこに、欲しいものは何でもあり、またわが許からもっと追加があろう。
- 36.われはかれら以前に、如何に多くの世代を滅ぼしたことか。かれらは、これら（マッカの多神教徒）よりも力においてもっと勇猛であったではないか。それでかれらは諸都市を巡り歩いたが、何処に避難所があろうか。
- 37.本当にこの中には心ある者、また耳を傾ける者、注視する者への教訓がある。
- 38.われは天と地、またその間にある凡てのものを6日の間に創造した。しかしわれは少しの疲れも感じることはなかった。
- 39.それであなたはかれらの言うことを忍び、主の栄光を誉め讃えなさい。太陽が登る前と沈む前に。
- 40.また夜も、かれを讃えて唱念しなさい、また礼拝の終りにも。
- 41.耳を傾けなさい。召集者が直ぐ近い所から呼ぶ日に（備えて）。
- 42.その日、かれらは真実の一声を聞こう。それは（墓場から）出て行く日である。
- 43.本当にわれは生を授け、また死を与える。われに（凡てのもの）の帰着所がある。
- 44.その日、大地はかれら（の所）から裂け、かれらは急いで出て行く。これこそが召集で、われにとっては容易な業である。
- 45.われはかれらの言うことを良く承知している。あなたはかれらに強制してはならない。わが警告を恐れる者たちに、クルアーンによって訓戒しなさい。

SURA 51.撤き散らすもの章 [アッ・ザーリヤート]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.広く撤き散らす（風）にかけて、
- 2.重く（雨を）運ぶ（雲）にかけて、
- 3.安々と走る（船）にかけて、
- 4.御命を奉じて配付を司るものにかけて（誓う）。
- 5.あなたがたに約束されたことは、真実で、
- 6.本当に審判は、必ず下る。
- 7.おびたしい軌道をもつ天にかけて（誓う）。